

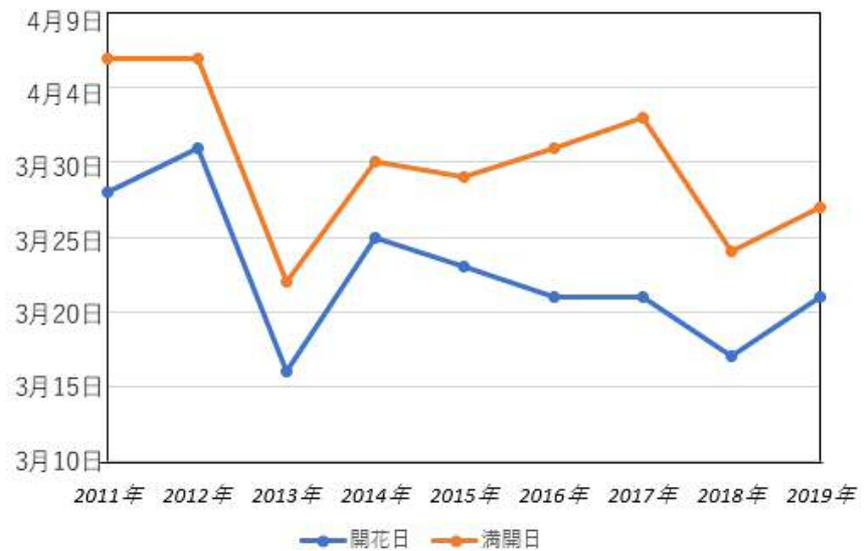
平成31年、今年のサクラはいかがでしたか

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年04月16日

東京のサクラの季節は終わりましたが、現在（4月16日）開花や満開のサクラは東北地方を北上しています。東京では今年は3月21日に開花しましたが、これは平年よりも5日早く、昨年より4日遅くなりました。また満開日は3月27日で、平年よりも7日早く、昨年より3日遅くなりました。

桜の開花日・満開日（東京）



東京のサクラの開花日・満開日

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	平年
開花日	3月28日	3月31日	3月16日	3月25日	3月23日	3月21日	3月21日	3月17日	3月21日	3月26日
満開日	4月6日	4月6日	3月22日	3月30日	3月29日	3月31日	4月2日	3月24日	3月27日	4月3日

今年も環境記者のみなさんからサクラの開花や満開の情報をいただきましたので、その一部をご紹介します。



ヨコウ（有明）は楽園
南大井3丁目公園（3月24日）

東八ツ山公園（3月27日）

大井3丁目中央公園
（4月10日）



ヨウコウ（陽光）は滝開
南大井3丁目沿道（3月24日）



東八ツ山公園（3月27日）



大井心頭中央海浜公園
（4月初旬）



花海道（3月29日）



東品川海上公園（4月1日）



聖蹟公園（4月3日）

御殿山から大崎へ（4月1日）

しながわ区民公園（3月31日）



立会道路（4月2日）



八潮団地（4月2日）

八潮団地（4月初旬）



御殿山公園（4月2日）



環境記者のみなさん、ありがとうございました。

環境情報活動センター

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年04月16日

イギリスの歴史的建造物でバイオマス発電

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年04月26日

Tyntesfield（ティンスフィールド）は、イギリス南西部のサマセット州北部に位置する、約150年前のヴィクトリア朝に建てられたゴシックリバイバル様式の大邸宅です。指定文化財1級の認定を受けています。現在は、ナショナルトラスト（※）の管理の下、一般公開されています。



Tyntesfieldには、2台のバイオマスボイラーが設置されています。1台目は邸宅に、もう1台は、今はビジターセンターとして使われている建物（Home Farm）に、暖房と温水を供給しています。緑豊かな広大な敷地内にある豊富な間伐材や木くずなどを木質ペレットや木質チップといった原料として有効活用して発電をしているのです。また、ソーラーパネルを設置し、太陽光発電で得たエネルギーをバイオマス発電に使っています。バイオマスボイラーの導入により、年間141トンの二

酸化炭素の排出を削減できていると試算されています。



広大な敷地



バイオマスボイラー

バイオマス発電や太陽光発電などの技術を取り入れて化石燃料の使用を減らし、エネルギーを自給自足し、持続可能な環境を生み出す試みは、Tyntesfield以外にも、ナショナルトラストが管理するいくつもの歴史的資産で実行されています。

※ナショナルトラストとは、歴史的建造物や景勝地の保護を目的に1895年に英国で設立された民間の非営利団体。歴史的に価値のある土地や資産を所有者から買い上げ、国民の利益のために永遠に保存し、次世代に伝えるべく管理、保全をしている。資金は、会費や寄付によりまかなわれる。350以上の歴史的な家屋や公園など、英国でもっとも広い私有地を保有。ピーターラビットで有名な湖水地方の3分の1はナショナルトラストの土地。

環境情報活動センター

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年04月26日

SSFF国際短編映画祭2019 地球を救え!部門

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年06月05日

5/30日(木) 二子玉川ITSCOMイツコムにて開催中の、「SHORT SHORTS FILM FESTIVAL & ASIA 2019」国際短編映画祭の「地球を救え!プログラム (EARTH)」を観て参りました。映画祭は今年で21回目を数え、各国約1万点の応募作から選りすぐられた映像作品(実写、アニメーション、ドキュメンタリーなど)がそれぞれのジャンルに分けられ、無料で鑑賞されています。



EARTHプログラムでは、プラスチックの海洋汚染、南アフリカの女性密漁対策部隊のドキュメント、...地球の未来を暗示するような作品などがあり、1~13分前後の全10作品の上映もさほど長くは感じません。作家の方も4人ほど会場にいらして、上映後、製作秘話などを聞くことができました。また、例年各作品の紹介まで載せていたパンフレットが簡易的なものに、配布物も少なくアンケートも任意に変更されていて、エコロジー的な配慮だなと感じました。



この部門の日程は終了していますが、6/16(日)まで映画祭は開催されています。
(*後半は渋谷の各会場にて) また「オンライン会場」として、パソコンでの視聴可能な作品もあります♪

・映画祭開催期間：5/29~6/16→「映画祭ホームページ」をご覧ください。

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年06月05日

‘しながわエコフェスティバル2019’開催

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年06月07日

5月26日（日）晴天の下、‘しながわECOフェスティバル2019’が開催されました。

当日の東京の最高気温は32.6℃でしたので、会場のしながわ中央公園は、場所によってはそれ以上の暑さになっていたかも知れません。



小学生が保護者と参加したワークショップ、ごみ・資源回収、エコカーやLEDなどについてレポートします。

(1) 小学生が保護者と参加したワークショップ

ペットボトルの中で雲作り、気圧の変化で出たり入ったりするコーヒー缶の中のコーヒー、エコかるたとり、シュロの葉でバッタ作り、木々や緑に触れながら楽しむといった様々なワークショップがあり、子どもたちが挑戦していました。



(2) ごみ・資源回収

ごみは持ち帰りが原則です。これには参加者皆さんの協力が第一です。環境展示・飲食ブースでは持ち帰り用のポリ袋は提供されていませんでした。ごみ・資源回収コーナーでは、「割りばし」「燃やすごみ」「燃やすごみ（生ごみ）」「びん」「缶」など、分別回収がされていました。



(3) エコカーとLED

電気自動車の普及が進んでいますが、燃料電池車の試乗会がありました。試乗した人は「非常に静かで、快適な乗り心地でした」とのことでした。

3種類の電球の消費電力比較です。白熱電球に比べ蛍光灯型電球の電気代は1/4、LED電球は1/8です。

また、電球の寿命は、白熱電球に比べ蛍光灯型電球は長く、LED電球は非常に長いとのことでした。

(それぞれ、1,000～3,000時間、6,000～16,000時間、40,000時間)



(4) フードドライブ

家庭で眠っている食品などを集め、地域の福祉団体や施などに寄付する活動です。賞味期限・消費期限をチェックし、フードドライブブースで受け付けていました。



(5) 使い捨てプラスチック製品の削減

近年、マイクロプラスチック（サイズが5ミリ以下の小さなプラスチックごみ）による海洋汚染が世界的に注目を集めています。本フェスティバルでは飲食ブースに「サトウキビの搾りかすを原料とした環境配慮型容器」や「紙パック」、「紙ストロー」などを提供し、使い捨てプラスチック製品の削減に取り組んでいました。

(6) その他

グラウンドでの最高気温は30℃を超えていたと思います。数か所で大型の送風機とミストが大活躍していました。



その他にもさまざまな企画があり、参加者は楽しい1日を過ごすことができました。

カテゴリ : 令和元年度

投稿日 : 2019年06月07日

JAL工場見学～SKY MUSEUM～にてエコ探し

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年07月21日

令和元年7月9日、羽田空港・新整備場の「JAL工場見学 SKY MUSEUM」に行ってきました。航空教室・展示エリアタイム・格納庫見学の3部構成で、航空教室では主に空港や機体の基礎知識、ボーイング社の機体製造過程を視聴しました。



展示エリアで「何かエコ要素的な情報はありますか?...燃費とか?」と伺って見たところ、軽量化のための関連素材の向上、大気観測の測定器を乗せた機体には緑のロゴが入っている事や、燃費向上・騒音低減を可能にしたエンジンのファン・ブレードの展示を教えて下さいました（ファン・ブレードはその機能美を評価されてニューヨーク近代美術館にも置いてあるとか...）。また衣料品からのバイオジェット燃料の製造を試みていて、「2020年にチャーターフライトを運行予定」という表示もありました。



ファン・ブレード バイオジェット燃料について カーペット

格納庫ではダイナミックなジェット機に目を奪われてばかりでしたが、通路に機内と同じカーペットが敷かれていて、それが客室乗務員や機長の制服からリサイクルされているという説明もありました。燃えにくい素材で出来ているそうです。

全体が飽きさせない構成で「もう少し見ていたいのにな〜」という方がリピーターになってしまうのうなずけます。個人的にはグッズ売り場での一品「PLANE TAG」に惹かれました。引退した機体から作られていて、色や厚さがそれぞれ違う一点もので、どの航空会社の機体だったのかがトレース出来るようになっている点や、加工の手間を想像すると貴重な感じがたまりませんね。



迫力のメンテナンス中エンジン デザインがかっこいい！プレインタグ

帰宅してからネット検索して見ると、気候変動解明のための大気観測の研究内容、バイオジェット燃料の活用についての詳細ほか、たくさん取り組みについて載っていました。

(JALの環境への取り組みについて→<https://www.jal.com/ja/csr/symbiosis/>)

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年07月21日

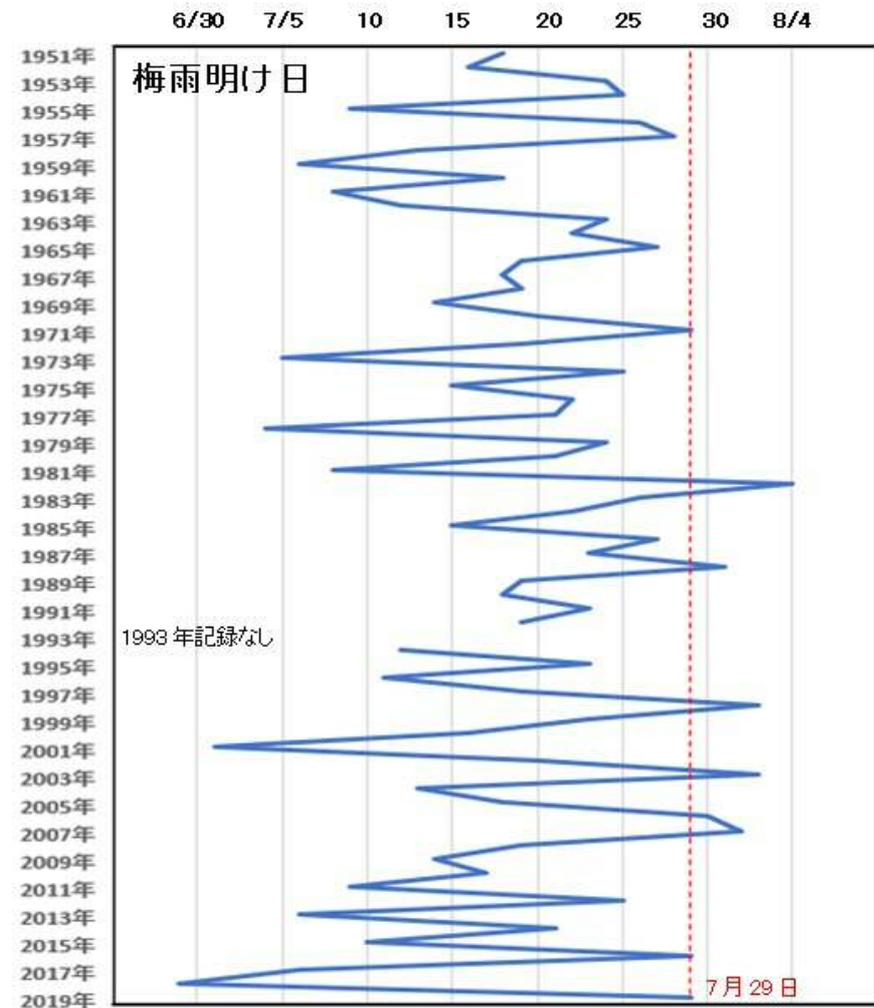
雨の日が多かった今年の梅雨

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年08月06日

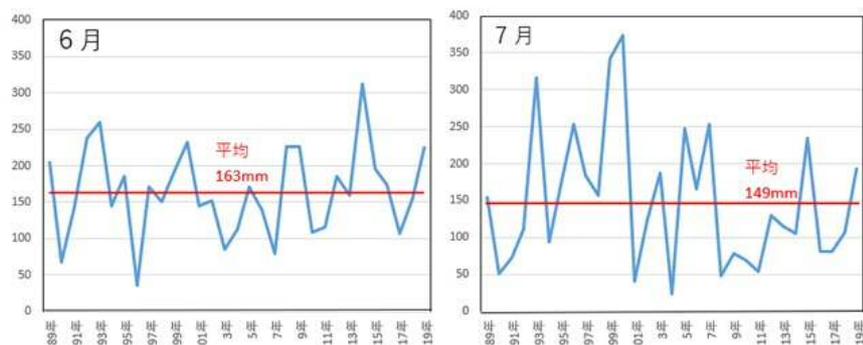
7月29日（月）、気象庁は関東甲信地方での梅雨明けを発表しました。正確には、「梅雨明けしたとみられると発表した。」です。9月に結果を再検討して修正し、確定値を発表します。

今年は平年より8日、梅雨明けが非常に早かった昨年（6月29日ごろ）より30日遅い梅雨明けでした。なお、昨年は1951年以降で最も早く、今年は7番目の遅さです。



また、雨の日が多かったと思います。東京では6月27日から7月29日までの33日間、連続して降水があり、これは1886年（明治19年）以降で最長とのことでした。しかし、降水量は最近30年間で極端に多くはありませんでした。雨の日が多かった7月でも平均を少し上回る程度でした。

東京の降水量 (mm) / 最近30年



「梅雨明け10日」という言葉がありますが、梅雨明けした後10日間くらいは、太平洋高気圧に覆われて夏型の安定した天気が続くということです。丁度今頃（8月上旬）がその時期で、全国各地で最高気温が35℃を超える猛暑日となっています。積極的に、また適切に水分をとるなど、熱中症対策を心がけることが大切です。

一方、6月下旬から鹿児島県をはじめ九州各地で記録的な大雨が降りました。昨年は岡山県倉敷市真備町での大規模な浸水被害が記憶にある方も多いと思います。かつて経験したことのない大雨が、全国いづどこで発生してもおかしくない昨今で、今や他人事ではありません。異常気象が異常でなくなっているとも言われるようになりました。私たち一人ひとりが万一の災害に備える必要があります。

さて、これらは地球温暖化によるものでしょうか。長期的には極端な大雨が増える傾向があると言われていています。大雨以外にも、スーパー台風の危険性は高まるといった報告があります。

環境情報活動センター 気象予報士 大島正幸

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年08月06日

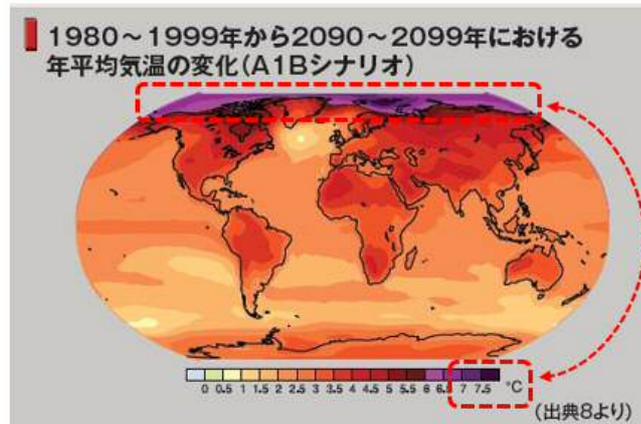
気候変動から気候危機へ

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年10月07日

地球温暖化が異常気象を引き起こしているのではないかと多くの方が思っているでしょう。それが確かかどうか、その研究が行われています。近年では温暖化が加速し、「気候変動」ではなく「気候危機」であると言われることもあります。

今年の夏、ヨーロッパは熱波に襲われ、パリでは42.6℃を記録、ドイツやオランダ、ベルギーでも40℃超えの記録的な暑さに見舞われました。グリーンランドでは、氷が解けてむき出しになった大地、物資の輸送に活躍してきた犬ぞりが氷が解けて水をかき分けながら走っている映像がテレビで紹介されました。アラスカの森林火災やトナカイの大量の死骸など、今年世界各地を襲う記録的な暑さの被害が発生しています。地球上の温度変化が最も顕著に表れるとみられているのは北極圏で、前記のグリーンランドやアラスカの実態がそれを示しています。



環境省
(年平均気温変化の
一つのシナリオ)

世界各国の科学者で作る国連のIPCC（気候変動に関する政府間パネル）は、地球温暖化が土地に与える影響などについての報告書を発表しました。このまま温暖化が進むと世界の食料供給に深刻な影響をもたらす。また異常気象の頻度・強さ・期間が増したのは温暖化の影響による可能性が非常に高いとしています。異常気象と地球温暖化の関係に、これまで以上に踏み込んだ報告書になっています。

記録的な干ばつに見舞われたフランスのロアル川は雨不足から水位が大幅に下がり、一部の川底が完全に干上がっています。フランスは世界でも有数の農業国で、とうもろこし畑では深刻な影響を受けて今年の収穫量が大幅に減少すると心配されています。また乳牛の食欲が低下し、牛乳の生産量が大きく減少しているとのことです。

開発途上国の一部ではすでに穀物の生産量が減少し、一方で人口の増加により飢餓の危険性が予測されています。日本では気温、海水温の上昇で、農作物の生育障害や収穫量が減少したり、産地や漁場の変化が進み農水産業への影響が出ています。温暖化の被害は今すでに出ているのです。

地球温暖化の進行を少しでも遅らせるために私たちができること、それは小さなことかもしれませんが、しかし、その一つひとつの行動が大切であることは間違いがありません。

参考までに温暖化によって氷河が減っている実態をご覧ください。

ユングフラウヨッホのスフィンクス展望台から見たアレッチ氷河の写真です。

28年間で氷河はかなり減少しているように見えます。



1984年10月 ←----- 28年 -----> 2012年6月末

品川区環境情報活動センター 気象予報士 大島正幸

カテゴリ: 令和元年度

投稿日: 2019年10月07日

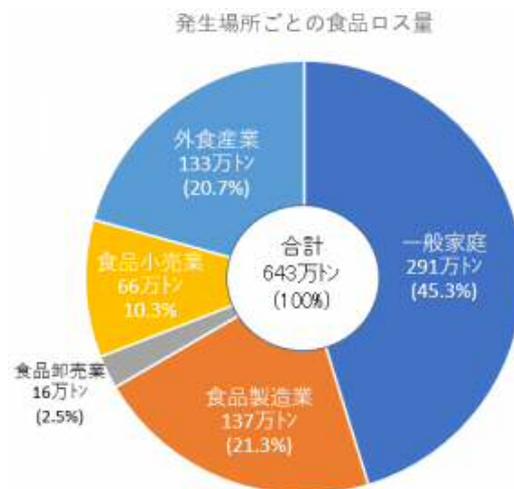
食品ロス削減に私たちができること

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年10月10日

食品ロス削減推進法が本年（令和元年）10月1日に施行されました。法律が施行される10月は「食品ロス削減月間」、10月30日は「食品ロス削減の日」ですので、食品ロスについて考えてみたいと思います。

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食べ物のことで、節分の時に食べる「恵方巻」が大量に処分されたことで問題になったことがありました。2016年度の1年間で国内での食品ロスの発生が643万トンと推計されており（下図）、これは1人あたり毎日お茶わん1杯分の食べ物を捨てている計算になります（朝日新聞19年9月25日）。



参考：外食時のおいしく「食べきり」ガイド
(消費者庁・農林水産省・環境省)

私たちにできることはどんなことでしょうか。

(1) 家庭では

食品ロスの半分近く（45%）が家庭で発生しています。

日常生活の中でちょっとした配慮で食品ロスを減らすことができます。

- ・冷蔵庫内の在庫管理を心掛けましょう。
- ・買い物に出かける前に冷蔵庫の中をチェックしましょう。
- ・時々在庫整理（冷蔵庫内の食材を使って料理）をしましょう。
- ・安いからといって買いすぎることをないようにしましょう。
- ・作りすぎないように、食べられる分だけを作るようにしましょう。
- ・食べきれなかったものは冷凍保存しましょう。
- ・贈答品でもらった食べ物で自分の好みでないものや、買ったけれど食べないだろうと思うものは、フードバンクへ寄付しましょう。

品川区環境課では、例年5月実施のしながわE C Oフェスティバルと、2月実施の環境講演会にて、食品の受付を実施しておりますので、ぜひお持ちください。

(2) 外食時

外食産業では全体の約20%もの食品ロスが発生しており、食べ残しによるものが相当程度を占めています。

飲食店で食事をするときは、おいしく食べて、できるだけ食べ残しをしないようにしましょう。

- ・できたての最もおいしい状態で提供された料理を食べましょう。

- ・自分自身の食事の適正量を知り、食べきれると思う量を注文しましょう。
 - ・小盛りや小分けメニューを上手に活用しましょう。
- お店選びの際には、こうしたメニューのあるお店を積極的に選びましょう。
- ・食べ放題のお店では、元を取るために無理をして皿に盛ったり、食べ残すのはやめましょう。

カテゴリ: 令和元年度

投稿日: 2019年10月10日

今年の紅葉の見ごろは？

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年11月06日

観光地の山々での紅葉の便りが聞かれる季節になりました。平地での見ごろはまだ先ですが、紅葉の見ごろを予想する計算式があります。

【4.62×(9月の平均気温) - 47.69 = 10月1日からの日数】

今年の東京の9月の平均気温は25.1℃（最近30年で6番目に高い気温）でしたので、紅葉見ごろは12月8日と予想されます。平年（11月27日）より11日遅い予想となっており、平年の9月の平均気温（22.9℃）より2.2℃高かったためです。気象庁は「かえでの紅葉日」を発表していますが、昨年は11月26日でした。ちなみに計算式での予想は平年とほぼ同じ11月27日でした。



気象台では、「紅葉（黄葉）した」というのは、木全体の大部分が色づいた状態になった時としています。

品川区内の一昨年の紅葉を見てみましょう。

<池田山公園>



<戸越公園>

<御殿山>

<しながわ区民公園>



環境情報活動センターでは、品川区内の今年の紅葉・黄葉のお便りを募集していま

す。お送りいただいたお便りをホームページでご紹介させていただく場合があります。
ホームページに掲載させていただいた場合、薄謝を進呈させていただきます。

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年11月06日

‘エコプロダクツ2019’開催

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年12月11日

12月5日（木）から7日（土）まで、東京ビッグサイトで開催されていた日本最大の環境イベント“エコプロダクツ2019～持続可能な社会の実現に向けて”に行ってきました。

（1）注目企画「SDGs EXPO 2019」

注目企画の中心に“SDGs”が挙げられており、多くのブースでSDGsに関わる展示が見られました。



「SDGs実装元年」とされた昨年に対し、今年には「SDGs経営元年」と言われているようで、

SDGsを事業に結びつける取り組みが加速しているようです。

（2）注目企画「SDGs×地方創生」

地方自治体と企業で構成する官民連携プラットフォームが、人口減少、超高齢化、異常気象等の問題解決についてSDGsと結び付けて紹介していました。

（3）注目企画「海洋プラスチックごみ対策コーナー」



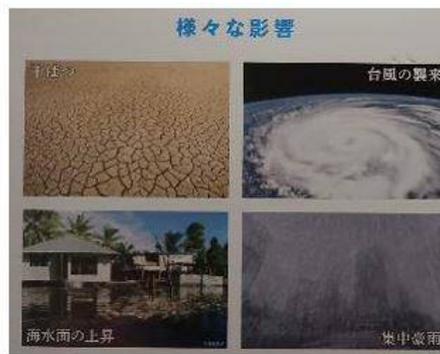
<話を聞きました>

・海洋プラスチックごみの問題は、一企業で対応するにはあまりに大きな課題であり、各企業が持つ技術やノウハウを組み合わせる、あるいは技術開発により社会全体の取り組みとして進めていくことが重要です。

・2019年11月現在、284社・団体が会員になっています。
・シンポジウム・セミナー・展示会の開催、ビジョン・アクションプランの策定、技術課題の検討などに取り組んでいます。

（4）環境省ブース（の一部）

①地球温暖化対策のための“COOL CHOICE”



このまま有効な対策をとらずに地球温暖化が進行すると、今世紀末には2000年頃と比べ平均気温が最大4.8℃上昇すると予測されています。地球温暖化が引き起こすといわれる異常気象現象として、渋谷のスクランブル交差点での土砂降りの雨を迫力のある360°VR映像で体験しました。

②ミライのクルマ（木からつくる自然なクルマ）

植物由来の新素材「セルロースナノファイバー（CNF）」活用の取り組み



今、自動車が大きく変わろうとしています。キーワードは、CO₂排出量を大幅に減らすための電動化と軽量化です。軽量化には、軽くて強い素材が必要になります。その材料として注目を浴びているのが、植物を原料としたナノレベルの強化繊維CNFです。環境省では、そのCNFを使った車づくりに挑戦しています。

（環境省リーフレットより）

全く驚きの挑戦です。

③水素社会実現に向けた取り組み

水素は利用時にCO₂を排出せず、燃料電池などを活用することで、電気や熱を高効率に取りだすことができるので、温暖化対策上重要なエネルギー源です。水素を身近なエネルギーとして活用する「水素社会」の実現と、それによる温室効果ガスの大幅な削減にむけて、燃料電池自動車・燃料電池フォークリフト・水素発電などのさまざまな水素利用の取り組みが国内外で行われているとのことでした。

（品川区環境情報活動センター取材）

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2019年12月11日

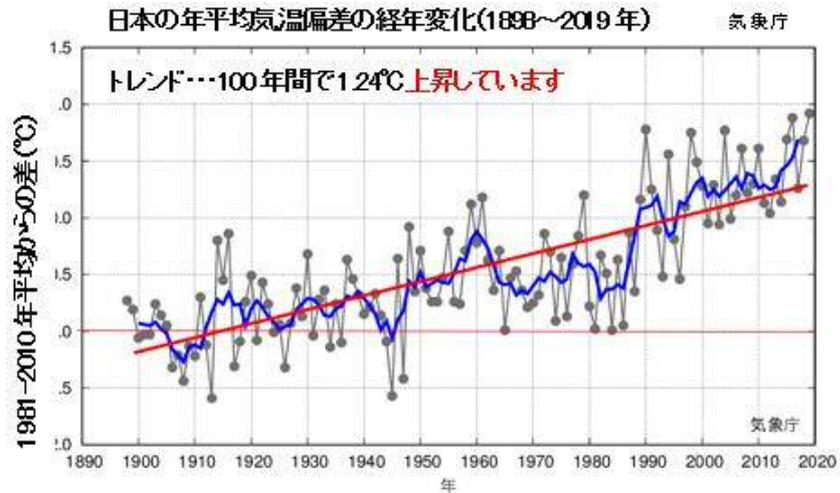
2019年の日本の天候と地球温暖化

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2020年01月09日

(1) 気温

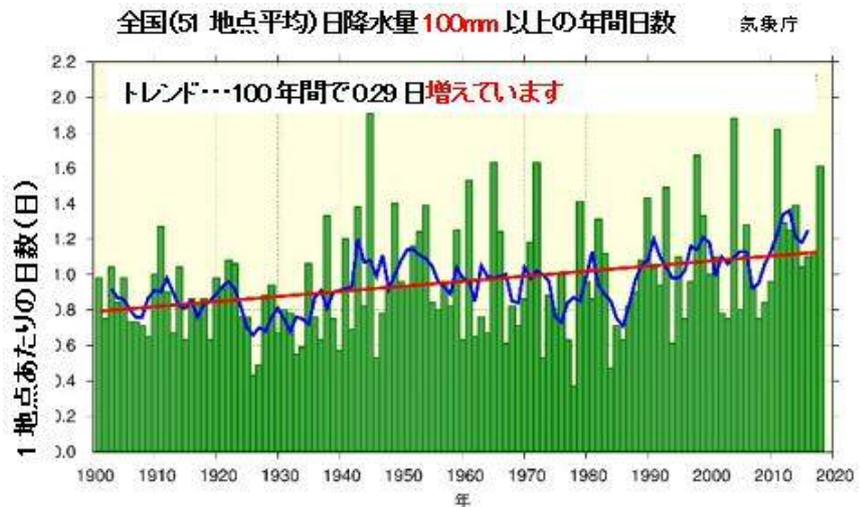
2019年は、年を通して気温の高い状態が続いたため、年平均気温は全国的にかなり高く、東日本では1946年の統計開始以来、2018年と並び最も高くなりました。下のグラフは1898年以降の年平均気温の変化を示したグラフですが、日本では100年間で1.24℃上昇しています。その要因としては、①二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響と②自然変動の影響が考えられます。

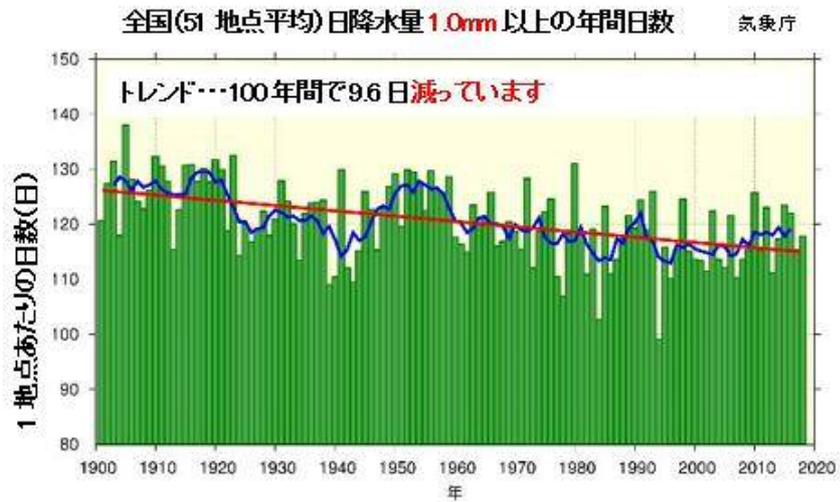


(2) 降水量

2019年は活発な梅雨前線や台風の影響により、各地で記録的な大雨が発生しました。台風第15号(9月)や第19号(10月)による大雨とそれによる甚大な被害については記憶に新しいと思います。

下のグラフは全国(51地点平均)日降水量100mm以上、1mm以上の年間日数の推移を示したグラフです。全国の日降水量100mm以上の年間日数は増加しているのに対し、1.0mm以上の年間日数は減少しています。地球温暖化やそれに伴う水蒸気量の増加により大雨の発生頻度が高まると考えられています。





(3) 台風

2019年は2つの台風（第15号、第19号）の接近・通過に伴って、北日本や東日本で記録的な暴風、大雨となりました。

- ・台風の発生数・・・平年（25.6個）より多い29個
- ・日本への接近数、上陸数・・・それぞれ平年（11.4個、2.7個）より多い15個、5個（上陸数は接近数の内数）

（注）「接近」は台風が中心が国内のいずれかの気象官署から300km以内に入った場合を指す。「上陸」は台風が中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を指す。

- ・この両台風の接近・通過に伴い、千葉で57.5m/sの最大瞬間風速を観測、箱根では日降水量が歴代の全国1位となる922.5mmを観測、北・東日本で記録的な暴風、大雨となりました。

このほかにも、夏から秋にかけて各地で記録的な大雨となりました。

(4) 地球温暖化との関係

最近、世界各地で大雨や干ばつ、異常高温など極端な気象・気候現象が発生しており、国内でも夏の顕著な高温や広い範囲での大雨が記録されています。台風に関しては、日本への到来回数は減るけれど、スーパー台風の危険性は高まると言われています。

このような極端な現象の増加傾向には、地球温暖化の影響があると考えられています。今後も地球温暖化が進めば、このような極端な気象・気候現象がさらに増加していくことが予測されています。

<気象庁資料等を参考にしました>

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2020年01月09日

使い捨てポリ袋に替わるもの～イギリスの場合

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2020年02月03日

イギリスから郵便が届きました。冊子が入っている袋に注目です。よくあるポリ袋に見えますが、実は違うのです！



この袋は、廃棄するじゃがいもから作られていて、100パーセント堆肥になります。

食品ロスを減らすことができます。そして、使用後も堆肥として役に立ちます。ゴミになるところだったじゃがいもで作られた袋は、植物を育み、新たな役割を果たすのです。土に戻るので、燃やす必要がなく、二酸化炭素の発生を防げます。使い捨てポリ袋に代わる、環境に優しい画期的な包装材です。

冊子を送ってきたのは、民間の環境保護団体のナショナルトラストです。ナショナルトラストが行っている、化石燃料の使用を減らし、持続可能な環境を生み出す試みについては、以前に記事で紹介しました。

「イギリスの歴史的建造物でバイオマス発電」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/coto/?p=1852>

イギリスでは、印刷物の包装材として、この堆肥になる素材は、広く流通しているようです。調べてみたところ、大手の新聞社のGuardian（ガーディアン）は、もう1年も前（2019年1月12日）から、配達のときの新聞の包装を、ポリ袋からCompostable Wrapping（堆肥化可能な包装）に全面的に変更しています。

日本でも参考にできるところがあるとよいと思います。

★イギリスで見つけた環境にやさしいエコフレンドリーなグッズ★



竹から作られた容器です。

環境情報活動センター

カテゴリ: 令和元年度

投稿日: 2020年02月03日

冬が暖かくなっている！地球温暖化？

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2020年02月17日

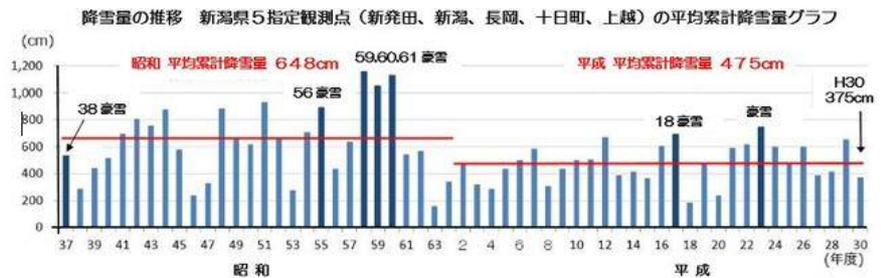
今年は暖冬で、スキー場などでは「雪が足りない！」という話をよく耳にしてきました。しかし雪が減っているのは今年だけではないようです。気象庁の資料によると、1962年～2013年の観測記録で「年最深積雪」（一冬で最も多く雪が積もった量）を調べたところ、北海道から東北の日本海側では変わっていませんでしたが、新潟県から九州に至る日本海側は減っていることが明らかになりました。

雪の多い新潟県では昭和37～63年度の平均は648cm、平成（～30年度）の平均が475cmで、雪が少なくなってきました。



60 豪雪（上越市・昭和 59 年度）

左写真・下グラフとも新潟県 HP より



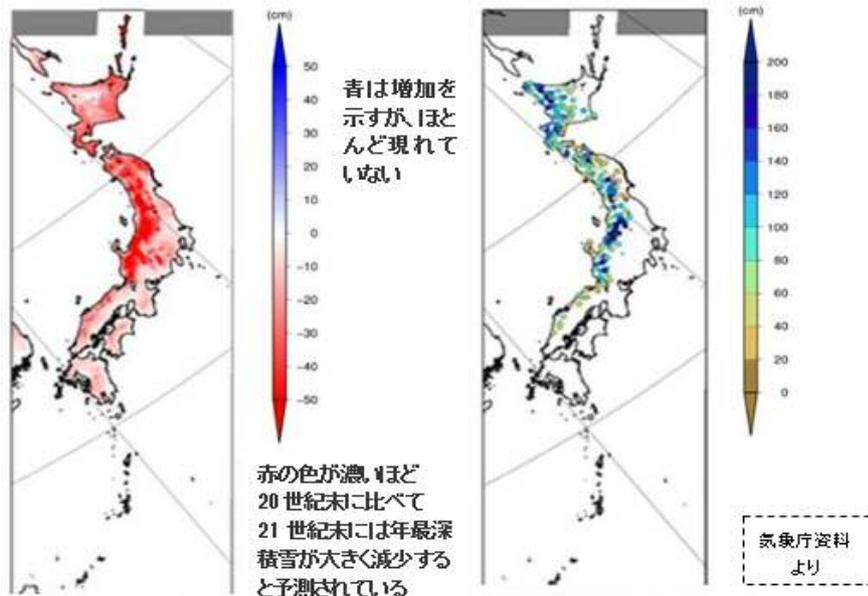
気象庁は21世紀末の年最深積雪はほとんどの地域で減少するものと予測しています。

（人間活動による温室効果ガスの排出が将来もこのまま高水準で続くと仮定した場合）

最深積雪が減少する理由

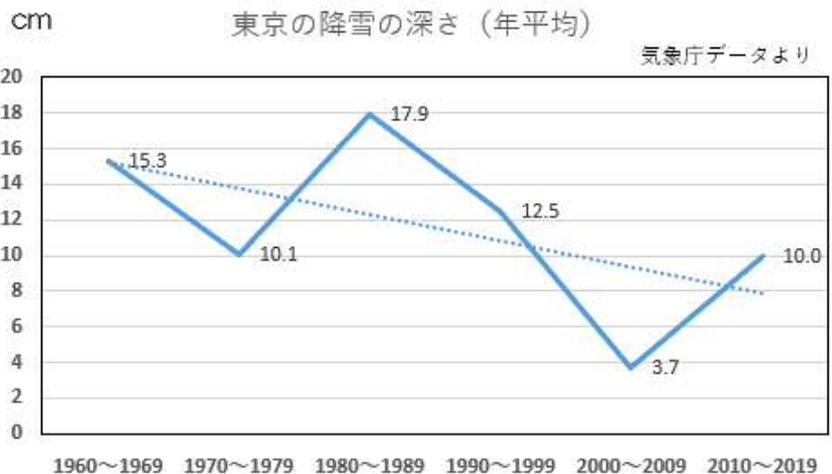
気温が上昇すると、雪ではなく雨として降りやすくなるほか、積もったとしても解けやすくなるためです。

一方、最深積雪が増加するところも少ないながらもあります。



年最深積雪の変化
(21 世紀末の 20 世紀末との差)

年最深積雪の平均値(20 世紀末)
アメダスによる 20 世紀末の 20 年間の平均値
西日本の日本海側などは 21 世紀末には積雪がほとんどなくなる地域もあると考えられる。

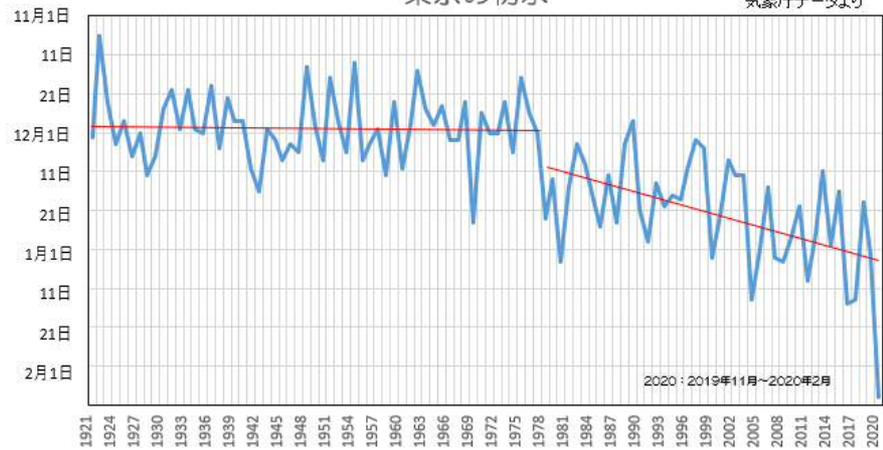


冬が暖かくなっていることを感じさせるのは、減っている雪だけではありません。冬になり、初めて張った氷のことを「初氷」と言いますが、この冬、東京での初氷は2月6日で初氷の遅さの新記録となりました。ちなみにこれまで一番遅かったのは2015~16年の1月13日でした。

東京の初氷はだんだん遅くなっており、早いのは1900年代中ごろで、遅いのは2000年以降が多くなっています。むかしは早く寒くなって氷が張っていたのに、近年は冬になってもあまり寒くならず、なかなか氷が張らないのです。名古屋でもこの冬の初氷は12月29日で、最も遅い記録となりました。埼玉県奥秩父にある有名な「三十槌の氷柱(みそつちのつらら)」も、この冬は暖かさで見られなくなっています。

東京の初氷

気象庁データより



上の図は東京で初氷が観測された日をグラフにしたものです。

1921年から1977年までは年によって前後はあるものの大体11月下旬から12月上旬にかけて初氷が観測されることが多かったのですが、1978年以降は遅くなる傾向が見られます。

本資料は、品川区環境情報活動センターの季刊紙“ecoだより”2019年度第4号（小学生版：品川区立小学校全児童に配付）の鉢木善知氏の記事に加筆したものです。

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2020年02月17日

体験型環境学習講座の内容が本に！

カテゴリ：令和元年度

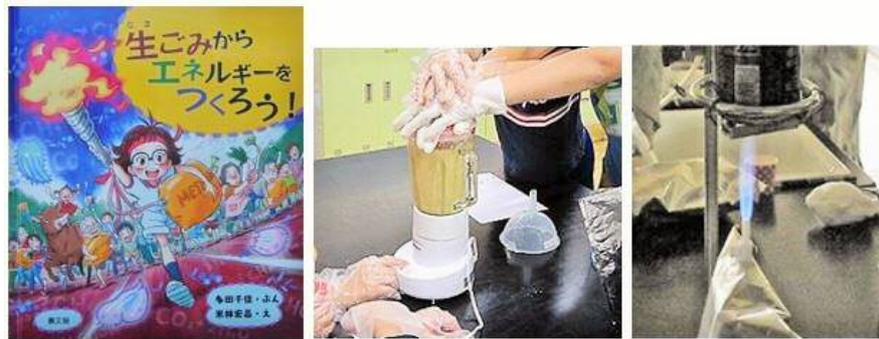
投稿日：2020年03月03日

当センターと山中小学校の共催で実施した体験型環境学習講座・授業（*）の内容が本「生ごみからエネルギーをつくろう！」になりました。（下左写真）

（*）バイオガスで聖火を燃やそう！～みんなで生ごみからバイオガスをつくる～

<https://shinagawa-eco.jp/wp/kouza/?p=2909>

本講座・授業は東北大学大学院農学研究科の多田千佳准教授が全国各地で行った出前授業で、品川区では平成30年5月8日（土）に山中小学校で行われました。



この講座・授業のねらいは、給食の生ごみから再生可能エネルギーであるバイオガスをつくる過程を、実験を通して体験しながら理解することです。

生ごみをミキサーで粉碎し（上中写真）、マルチビタミンなどの溶液を加えよく混ぜ、牛の胃に見立てたペットボトルの中に入れます。そこに発酵菌を入れ40℃弱の温度に保ちます。ペットボトルとアルミホイルの袋につけた口とをつなぎます。3週間ほどでペットボトルの中がガスでいっぱいになります。

前もって作っておいたガスでお湯を沸かし（上右写真）、みんなでお茶を飲みました。

このようにして作ったガスを2020東京オリパラのパラリンピックの宮城県パラ聖火採火式のエネルギー源として採用されることになったとのことでした。

毎日の生活の中で発生する生ごみを利用して環境にやさしいエネルギーを作ること、温暖化が進んでいる今日において非常に大切なことですね。

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2020年03月03日

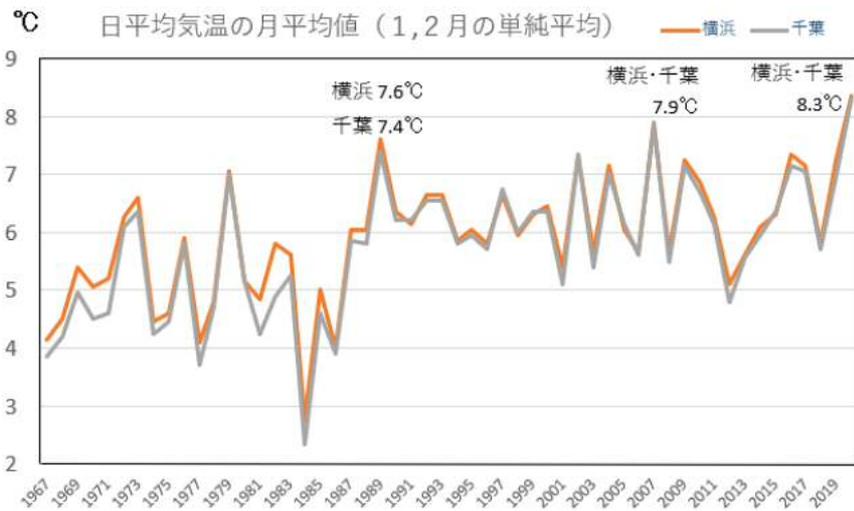
暖かった今年の冬～観測史上最速の桜の開花

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2020年03月18日

「今年は暖冬」…テレビや新聞などでよく目にしましたが、寒暖を判断するいくつかの指標を見てみましょう。

(1) 1～2月の気温



1989年、2007年に高い気温を記録していますが、今年2020年はそれらを超える高い気温を記録しました。

(2) 梅の開花

2月29日までに開花した全国40地点で見ると、平年より早い地点が37地点、平年と同じが1地点、平年より遅い地点が2地点でした。

(3) 秩父の氷柱、今年は見られず

・「岩清水が凍り作り上げられる氷の芸術です」と、「秩父観光ナビ」で紹介されている埼玉県秩父の冬の名勝「三十槌の氷柱（みそつちのつらら）」ですが、今年暖冬の影響を受けて氷柱ができなかったそうです。

・埼玉県秩父にある冬の風物詩「尾ノ内百景（冷っけえ〜）氷柱」は地元の人々の手によって毎年作られる氷柱ですが、今年暖かい日が続き、できても溶けてしまっただけで氷柱がない状態が続いているとのこと。

(4) 東京での桜の開花…全国で最も早い開花です

3月14日（土）、東京での桜の開花が発表されました。東京（靖国神社の標本木）では、1953年に統計を開始して以来、最も早い開花となりました。ソメイヨシノの標本木では全国で最も早い開花発表です。これまで最も早かったのは2002年と2013年の3月16日でしたが、それより2日早く、平年の開花は3月26日ですから12日も早いこととなります。また、東京都心で桜の開花日に雪が降ったのは初めてだそうです。この約1週間後に見ごろを迎えますが、今年新型コロナウイルスの問題で、花見は自粛することになるのでしょうか。

カテゴリ：令和元年度

投稿日：2020年03月18日